

**特別支援学校小・中学部の
児童生徒を対象とした
AI-PACを活用した学部ワイドの取組**

児童生徒の実態

□ 対象学部：小学部、中学部

□ 対象集団・学習形態について：

対象児童生徒は年齢が多岐に渡っていることもあり、必然的に実態や課題も様々である。学習形態としては、国語・算数(数学)・自立活動のいずれかにおいては、教員と1対1での対面学習の時間が全員に設定されている。各児童生徒の実態に応じた個別課題は、この時間を主として取り組んでいる。

教員の困り感・願い

- 実態に応じた指導目標を立てることが難しい(特に新入生や転入生)。
- 校内で実施可能な発達検査が限定されていることもあり、客観的なアセスメントをとる選択肢が少ない。
- 子どもたちのできることを、より増やしていきたい。
- 指導目標を立てやすくするために、指導すべき項目が段階的に示されているものが欲しい。
- 小学部教員が中学部の授業に入ることがある(中学部教員→小学部授業もある)。学部会等で情報共有は行っているが、小中学部全教員が手軽にいつでも実態を確認できるツールが欲しい。

実践の目的

- ① AI-PACの活用により、俯瞰図を通して適切な実態把握と指導目標の立案を行う。
- ② 小・中学部合同の学部ワイドで取り組むことで、他学級や他学部の見童生徒の実態や指導目標を共有する。

実践の流れ

8月：AI-PACの事前研修2回（小・中学部全教員）

9月：アドバイザーと事前打ち合わせ（学部長・担当リーダー）

→第1回コンサルの研修内容の確認

→第1回コンサルを迎えるまでにすべきことの確認

9～10月：俯瞰図作成（小・中学部全教員）

10月：第1回コンサルテーション

12月：第2回コンサルテーション

2月：第3回コンサルテーション

第1回コンサルテーションを迎えるにあたり

【アドバイザーとの事前打ち合わせ（9月）】

□ 第1回コンサルまでに、事前に準備しておくことはあるか？

→ 【アドバイザー】可能な範囲で俯瞰図を作成して、各児童生徒の標的課題を立てて貰いたい。必要に応じて「課題構成事前アセスメントシート」を活用しても良い。その標的課題における実践方法等について、第1回目コンサルを実施させて貰いたい。



- ①俯瞰図の作成を行う（小・中学部全教員）。初めての教員は、AI-PACの実践経験のある教員から教えて貰いながら作成する。必要に応じて「課題構成事前アセスメントシート」を活用する。
- ②第1回コンサルでは児童生徒11名の各事例についてご助言いただくため、「障がい名・検査結果・基本的実態・俯瞰図の標的課題」の資料を全員分まとめておき、当日アドバイザーに確認いただけるよう準備する。

第1回コンサルテーション

各児童生徒の実態や標的課題、俯瞰図（課題構成事前アセスメントシート）を一人ずつアドバイザーに伝える。

【例：A児】

- 知的障がい / 自閉スペクトラム / 発達遅滞
- 発達年齢（全領域）：2歳1ヶ月
- 基本的実態
 - ・ 発語が少なく、発音も不明瞭である。授業開始、終了の挨拶を部分的に発声することができるようになってきた。
 - ・ PECSを用いた「〇〇先生、（おもちゃ）ください」の文構成をすることができる。
 - ・ ひらがな、数字、色、形のマッチングをすることができる。
 - ・ 言語の受容に困難さがあり、モデリング等の視覚支援を併せて行うことで、理解することができる。
 - ・ 大きな音や泣き声が苦手で、状況に応じイヤーマフを着用している。
- AI-PAC俯瞰図 標的課題
 - ・ 【コミュニケーション】受容－語彙 [ジェスチャー無しで物に反応]

第1回コンサルテーション

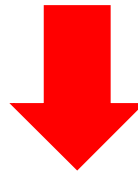
【例：A児】 課題構成事前アセスメントシート

②	視覚情報	2-1	カードのマッチング：例) りんごのカード2枚、バナナのカード1枚用意。りんごとバナナカード机の上に置き、りんごカードを渡し「同じにして」で重ねるか。	1 A右 +	2 A左 +	3 B右 +	4 B左 +	通過 (3/4回正答)			
	模倣動作	2-2	微細模倣：「こうして」と動作を見せ、同じように反応できるか確認する	グーパー1 +	グーパー2 +	OK1 +	OK2 +	通過 (3/4回正答)			
		2-3	口形模倣・音声模倣：音声を聞かせたり、口の形をみせ、同じように反応できるか確認する	ぶるる等口形模倣 +	ばばば等の連続音 +	「あー」等の単音 +	みじかい単語 +	通過 (4/4回正答)			
2-4	名詞の受容：絵本や絵カード、フィギュア等を使って、「名詞+ちようだい」と指示し、該当する名詞を選べるか確認。※聞いた名詞も記入	1 (名詞：ボール) +	2 (名詞：くま) -	3 (名詞：レモン) -	4 (名詞：バナナ) -	3/4回正答で通過▶2-6へ	✓				
2-5	動作指示：「〇〇して」「〇〇さわって」という音声指示のみで反応できるか確認する	バイバイ1 復唱 -	バイバイ2 -	ばんざい1 -	ばんざい2 -	あたま1 -	あたま2 -	おなか1 -	おなか2 -	6/8回正答で通過▶3-1へ	✓
2-6	名詞の叙述：絵カードやフィギュア等を使って「これなに？」ときき、名詞答えるか確認する。※聞いた名詞も記入 ※受容で聞いた名詞以外で実施	1 (名詞：りんご) 復唱 -	2 (名詞：バナナ) -	3 (名詞：レモン) -	4 (名詞：バナナ) -	3/4回正答で通過▶3-2へ	✓				
2-7	自己情報 「お名前は?」/「何歳?」聞くと答えるか。	名前1 復唱 -	名前2 -	何歳1 -	何歳2 -	3/4回正答で通過▶3-3へ	✓				
③	3-1	★2段階動作：「おなか、ばちばち」等と動作を2つ連続で聞かせて反応できるか確認 ※指示の途中で動き出さないよう注意	おなか、ばちばち1	おなか、ばちばち2	バイバイ、あたま1	バイバイ、あたま2	3/4回正答で通過				
	3-2	★動詞の叙述：動詞カードを見せ「これなにしてる?」と聞き、答えるか確認する。 ※聞いた動詞も記入 ※受容で聞いた動詞以外のもので実施	1 (動詞：)	2 (動詞：)	3 (動詞：)	4 (動詞：)	3/4回正答で通過				
	3-3	★ヒントから物を答える 犬：わんわん鳴くのは? 車：ぶっぶーって走るの?と聞いて答えるか	わんわんなくのは?犬	にゃあにゃあなくのは?猫	ガタゴト走るの?電車	飲むとき使うのは?コップ	3/4回正答で通過				
	3-4	数字/ひらがなの受容 数字カード/ひらがなカードを数枚ランダムに並べ、「3ちようだい」等と聞いて反応するか確認※聞いた数字/ひらがなも記入 ※一つでもチェック3で実施する項目があれば実施	1 (数字：)	2 (数字：)	1 (ひらがな：)	2 (ひらがな：)	4/4回正答で通過				

第1回コンサルテーション

【アドバイザーより助言（A児について）】

- 絵と文字のマッチングを練習をするとよい
- 2段階動作を文字で指示するとよい
- ジェスチャーなしで物に反応する学習では
ジェスチャーありでベースラインをとるとよい



AI-PAC俯瞰図における標的課題を

【コミュニケーション】受容－語彙

[ジェスチャー無しで物に反応]として、

指導目標を「2つの具体物から指示されたものを選ぶことができる」に設定する。

第2回コンサルテーション

各児童生徒の指導目標や進捗状況（記録）をアドバイザーに伝え、それぞれ助言を受けた。

【例：A児】

○指導目標 「2つの具体物から指示されたものを選ぶことができる」

○記録

日付	物	指示	記録（プロンプト）	正答率
10月7日	帽子・かばん	帽子	-	0%
	ボール・帽子	帽子	-	
	連絡帳・水筒	水筒	-	
10月22日	連絡帳・帽子	帽子	P（言語：直前にヒント）	0%
	帽子・コップ	コップ	P（言語：直前にヒント）	
	水筒・連絡帳	連絡帳	P（言語：直前にヒント）	
10月23日	帽子・水筒	①帽子	+	66%
	連絡帳・かばん	①連絡帳	+	
	水筒・連絡帳	水筒	P（言語：直前にヒント）	
10月29日	連絡帳・帽子	③帽子	+	66%
	かばん・水筒	①かばん	-	
	帽子・水筒	①水筒	+	
10月31日	帽子・水筒	③帽子	+	66%
	連絡帳・かばん	②かばん	+	
	コップ・帽子	①コップ	P（言語：直前にヒント）	

11月6日	鉛筆・帽子	①鉛筆	+	100%
	イヤマフ・ボード	②イヤマフ	+	
	コップ・イヤマフ	③コップ	+	
11月7日	帽子・かばん	④かばん	+	100%
	連絡帳・水筒	③連絡帳	+	
	かばん・水筒	③水筒	+	
11月10日	イヤマフ・帽子	③イヤマフ	+	100%
	ボード・水筒	④水筒	+	
	ボード・帽子	①ボード	+	
11月11日	コップ・鉛筆	鉛筆	-	66%
	帽子・連絡帳	③帽子	+	
	ボード・コップ	③コップ	+	
11月12日	連絡帳・帽子	③帽子	+	100%
	水筒・ボード	③連絡帳	+	
	ボード・連絡帳	③ボード	+	
	帽子・水筒	③水筒	+	

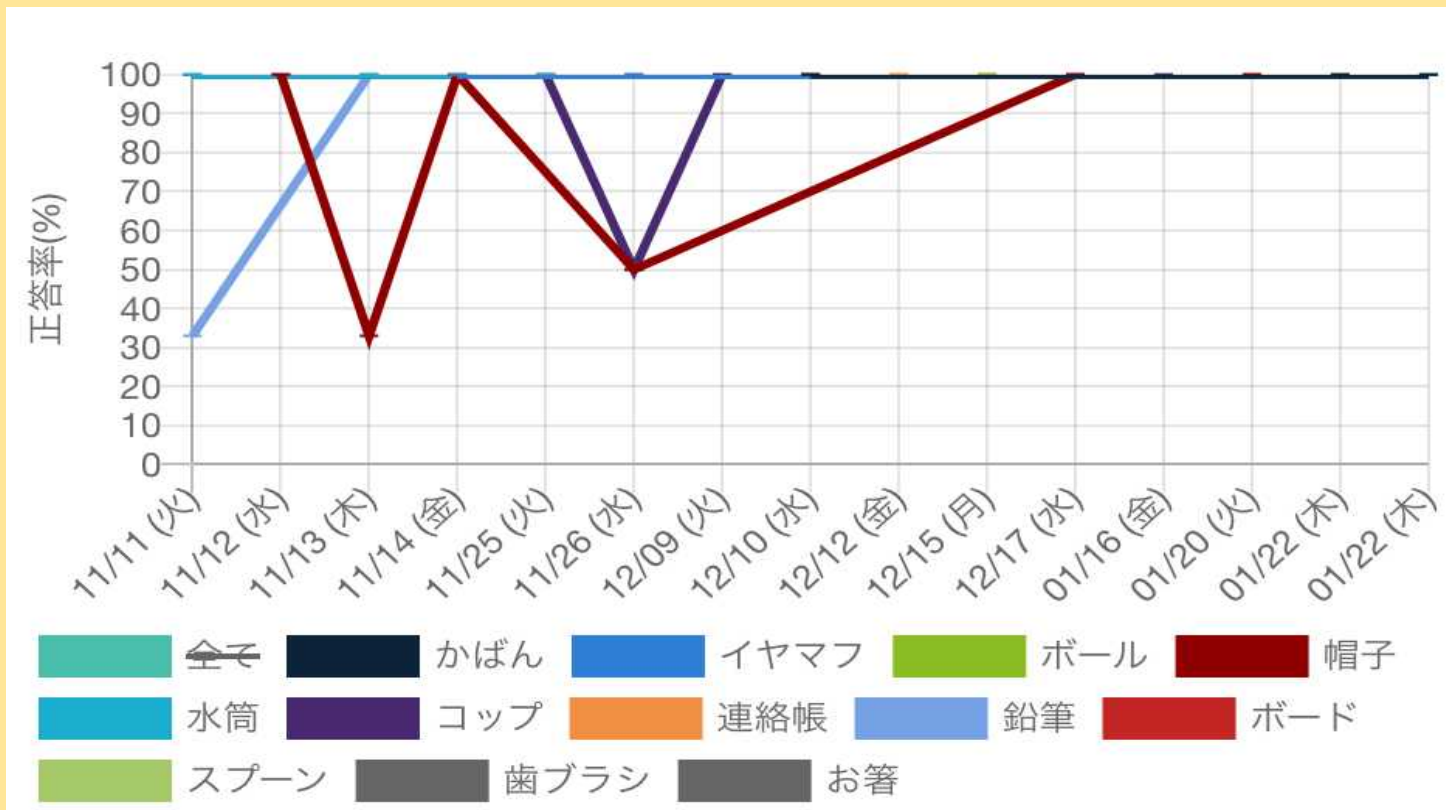
第2回コンサルテーション

【アドバイザーより助言（A児について）】

- 表を物ごとにまとめるとわかりやすい（AI-PACのグラフ作成の機能を活用してもらっても良い）
- 達成度に応じて3択にステップアップするとよい



AI-PACのグラフ作成の機能を活用



成果と課題

取り組んだ教員（各学級担任）を対象としたアンケートより

【成果】

「AI-PACを教育活動に活かすことができた」と回答した教員
…100%

○ 「活かすことができた」と回答した理由（多い順）

- ・ 実態把握に役立った。
- ・ 目標設定がしやすかった。
- ・ 児童生徒のできるが増えた。
- ・ 課題作成の参考になった。

AI-PACの実践の中で立てた指導目標が、個別の指導計画の目標とリンクしている教員が複数いた。よって「実態把握に役立った」「目標設定がしやすかった」というメリットを活かし、**個別の指導計画の目標立案にも繋げることができると推測される。**

成果と課題

取り組んだ教員（各学級担任）を対象としたアンケートより

【課題】

「AI-PACの実践を通して、やや負担感を感じた」と回答した教員
…62%

○ 「やや負担を感じた」と回答した理由（多い順）

- ・ 俯瞰図の作成が大変だった。
- ・ AI-PACの実践に慣れていないため。
- ・ 適切な目標設定が難しかった。

AI-PACの実践に初めて取り組む教員からは、「一から俯瞰図を作成する必要があり、負担感を少し感じた」という意見が見られた。AI-PACに慣れれば負担感も軽減されるかもしれないが、**初めて取り組む教員にとっても負担感が少ないシステム作り**を目指しつつ、実践をフォローできる**担当リーダー**の人材育成を継続することが重要であると考えます。